

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

選択・論述・計算・記述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

(a), (b)と中間2題構成の大問が2題出題された。

その他トピックス

大気分野から計算問題の出題がなかった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野 (テーマ)	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択 論述 計算	銀河	地学	問3は、「定番」の計算問題である。手際よく答えること。 問4(2)は、明るさと質量を比較し、中心部に大質量の天体が存在することを答えるように。 問5(3)は、銀河系が活動銀河ではない理由として答えることのないように。	やや難
II	記述 論述	大気運動 降水	地学	問3(2)は、論述量が多くなりやすいだろうがなるべく簡潔にまとめることを心がけること。 問4は、アルベドが大きくなることが述べられていればよい。	標準
III	選択 計算 論述	地震	地学	問1～問3は、確実に得点したい。 問5は、地震発生前の状況を論述することに注意が必要である。 問7は、立式のときに表面積の公式を使うことや単位の変換に注意が必要である。	やや易
IV	記述 論述 選択	地史・環境 地質平面図	地学	問2は難問である。「海洋底へ運ばれて、堆積物中に埋没し」との表現から、陸上植物の遺骸が地中に埋もれるなどの解答は不適當である。 問3と問4は、簡潔にまとめるとよい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

京都大学は、論述問題の比率が極めて高い。また、計算問題も多く出題される。解答用紙の解答欄の大きさを見て、くじけそうになるかもしれない。しかし、解答欄を埋めることを目標とするべきではなく、自分が十分と思う内容を簡潔にまとめることこそ肝要である。論述や計算の対策に十分な時間をかけるべきであり、時間配分にも注意を払う必要がある。また、様々な出題形式の問題に備えるためにも、教科書にも十分目を通すこと。そして、過去問演習を繰り返すべきである。